

とは、本実験における虫の食害状況からみても明らかである。マルセル石鹼処理布では 40°C、4 回、各回 5 min のすすぎに対しても、尚好んで食害し、同様に処理した合成洗剤の場合は殆んど食害が無かった。

油脂系並びに石油系の各種合成洗剤で 0.3%，40°C、15min. の普通毛織物洗浄方法によっても、かなり防虫効果を上げ、一方石鹼類による洗浄は却って虫の好餌を付加する結果になることを実験によって確めた。

尚この虫の虫害最盛期は、一般に 7・8 月頃といわれているが、当年孵化した幼虫は 7 月中までは、殆んどまだ小さく食害度も軽微であるのに対し、春から夏にかけて盛んに虫害を与えているのは、前年春に孵化し既に 1 年以上経て、尚変態しないままの成熟した幼虫であるから、この虫による被害は年間を通して殆んど止む時がない事実を注意したい。

## \* 12 被服の虫害に関する研究（第 3 報）ヒメマルカツ オブシムシの洗剤処理布における虫害について

熊本大学 谷川美知子

前報において、ヒメマルカツオブシムシの毛織布における虫害——染料及び洗剤処理との関係について報告した。そのうち洗剤処理が食害に影響することが甚だ大きく、合成洗剤で処理したものは、極めて食害が少く、マルセル石鹼で処理したものは、無処理布よりも好んで食害する結果を得たことを報告した。今回は引きつづき洗剤処理布と食害の関係について検討するため、いくつかの実験を試みた結果について報告する。羊毛洗浄における界面活性剤の吸着率は他の繊維に比して大きく、その脱着も完全でないことが明らかにされているが、このこ